

2019年6月30日 川越教会

喜びの秘訣

丸山 勉

[聖書] フィリピの信徒への手紙 4章 10～18節

さて、あなたがたがわたしへの心遣いを、ついにまた表してくれたことを、わたしは主において非常に喜びました。今までは思いはあっても、それを表す機会がなかったのでしょうか。物欲しさにこう言っているのではありません。わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。それにしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれました。フィリピの人たち、あなたがたも知っているとおりに、わたしが福音の宣教の初めにマケドニア州を出たとき、もののやり取りでわたしの働きに参加した教会はあなたがたのほかに一つもありませんでした。また、テサロニケにいたときにも、あなたがたはわたしの窮乏を救おうとして、何度も物を送ってくれました。贈り物を当てにして言うわけではありません。むしろ、あなたがたの益となる豊かな実を望んでいるのです。わたしはあらゆるものを受けており、豊かになっています。そちらからの贈り物をエパフロデイトから受け取って満ち足りています。それは香ばしい香りであり、神が喜んで受けてくださるいけにえです。

[序] 「今日」を喜び祝おう

今日で6月も終わりますね。丁度一年の折り返し地点です。この半年間の主の恵みを感謝します。それにしてもこの前新年を迎えたと思ったのに、本当にアツと言う間ですね！

「今日こそ主の御業の日。今日を喜び祝い、喜び祝おう」(詩編 118 編 24 節)。先ほど読んで頂いた招きの聖句です。—この「今日」というのは、何より「主の日」という意味があると思いますが、それだけでなく、私たちの「毎日」365日も、もちろん神様の御業、神様の恵みの外にある日、ではありませんよね。詩編の作者は、その**「今日を喜び祝い、喜び祝おう」**と書いています。では、その今日を喜ぶと言うのは、何に拠る喜びなのでしょう？

[1] 獄中の中にあっても

パウロは、フィリピの信徒への手紙を結ぼうとするところで、彼は自分の最も「根っこ」になっている思いを語っていると思います。彼は12節で**「いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています」と**語っています。**「いついかなる場合にも」と**あります。考えてみますとパウロはこの時、獄中の中に置かれているわけです。

最も喜べない状況、最も自由がない状況ではないですか？ けれども、彼はその中にありながら、自分の愛するフィリピの教会の人々に書き送るのですね。「いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています」。その内容はと言うと、11 節後半からお読みしますと、「わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を…」と書いています。何と自由でしょうか！

[2] わたしを強めてくださる方

この「満足すること」「足ること」という表現は、ストア哲学の愛用語だそうです。そして、ストア哲学では自分の意志の力を重んじます。いかなる境遇の中でもしっかりした意志を持って立ちなさい、と。けれども、パウロはそうは言わないのですね。むしろどんな境遇の中にあっても足ることが出来る秘訣、それは自分の中にはありません、と書いています。13 節。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」。これです。弱い私を支え、強めて下さる方がいるのだ。だから私はどんな状況の中でも生きていける、喜んで生きていける、それはイエス・キリストの故だ、と書いています。彼はフィリピの教会の人々に（もしかしたらもう会うことが出来ないかも知れない彼らに）このイエス・キリストにしっかりと結びつくことを語っているのですね。先週もお話しましたが、パウロはどこか遺言を書くような思いを持ってこの手紙を書いたと言っても良いのではないかと思います。

考えてみると、私たちは確かに色々なものの上に立って、支えられて生きていると言えると思います。健康、お金（財産）、住宅（住まい）、或いは内面的には、人からの評価といったようなもの。それは確かに大事でしょう。…しかし、もっとその下に「私自身」を支える土台というものがあり、その方がもっと大事なのではないでしょうか。そこと繋がっていないと、先ほど挙げたもの（健康やお金等）が失われた時には絶望的になってしまいます。また、人からの評価というものも実に曖昧なもので、それにしがみついて、それをプライドにしていると痛い目にあうということもよくあることです。そういったものを人生の「土台」にするのは、それこそイエス様がおっしゃるように、砂の上に家を建てるようなものなのだと思います。パウロも、かつての自分のプライドが粉々に砕かれた人だったと思います。でも、それが彼の救いでした。神様の憐れみの上に、神様の赦しの上に自分の人生を築くことに目が開かれたからです。これ以上私を支えてくれるものはない。だから彼は告白しました。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」。

[3] 協同のわざのために

そして、このフィリピの教会宛の手紙の最後は、かなり具体的なことがテーマになっています。「捧げもの」「献金」についてです。です。献金の話というと、ちょっと聞きたくない、という方もいらっしゃるかもしれませんが、パウロは、それを信仰の中心の事柄として語っている。そう言っても良いのではないかと思います。

これからお話しすることも、私の個人的なお奨めと捉えるのではなく、聖書が語る本質的な献金の捉え方としてお聞き頂ければと思います。

パウロとこのフィリピの教会はとても良い関係にあったことが窺われます。14節以下にこうあります。「それにしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれました。フィリピの人たち、あなたがたも知っているとおりに、わたしが福音の宣教の初めにマケドニア州を出たとき、もののやり取りでわたしの働きに参加した教会はあなたがたのほかにも一つもありませんでした。また、テサロニケにいたときにも、あなたがたはわたしの窮乏を救おうとして、何度も物を送ってくれました」。パウロは心から感謝しているのです。あなた方は私の宣教の初めから、金品で持って支えてくれた。私が貧しかった時もそうだったと。ですけれども、これはパウロ個人の生活が守られるためということよりも、これはそれこそ、パウロと教会の「協同」の業が支えられるためなのです。パウロは言っていますよね。「それにしても、あなたがたは、よくわたしと苦しみを共にしてくれました。」これは重要な言葉だと思います。教会の宣教とは、一緒に苦しむことなのですね。だから、一緒に「献げる」ことなのです。「一緒に」です。教会の牧師はサラリーマンではないのです。「雇い雇われ関係」ではありません。ですから、牧師自身も献げます。むしろその捧げることのリーダーであることが求められます。

[結] 思い煩いでなく、感謝と求めを！

川越教会の現状を見ると先行き不安に思うこともあるかもしれません。10年後は？ いや、5年後は？ と。けれども、思い煩いがあっても、私たちは失望はしません。現に今日もこうやって一緒に神様を礼拝している事実！ これは神様の祝福以外の何ものでもないと思います。聖書は、私たちが常に思い煩う弱い存在であることを良く知っています。ですから私たちにこう奨めているのです。今日読んで頂いた少し前の箇所ですが、4章6～7節です。

「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」

思い煩うことがあれば、むしろ「感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。」と言うのですね。「求めない」と言うのです。「私はこうしたいのです、神様」と、前進しなさい、言っているのではないのでしょうか。

私は教会が「献金」「献げもの」で成り立っているというのは本当に素敵なことだ、と思います。これ以上純粋な、単純なことではないではないですか。逆に言えば、その思いが私たちの中から無くなれば、いとも簡単に教会は立ちゆかなくなります。沈没します。その意味で、教会とは、「覚悟」の共同体ではないでしょうか。少ない数の教会員かもしれません。しかしだからこそ、私たち一人ひとりの積極性がものをいうということも言えるでしょう。私もまだまだ牧師になって一年少しです。でも、皆さんと一緒に礼拝を捧げられること、讃美できること、教会を作っていくことが出来ることを感謝しています。

パウロは言いました。「贈り物を当てにして言うわけではありません。むしろ、あなたがたの益となる豊かな実を望んでいるのです。」と。捧げものは、私のためではない、むしろ、あなたがたの益となる豊かな実を望ばせるものなのだ、というのですね。イエス様も「天に宝を積みなさい」とおっしゃいました。

それが出来るのは、私たちが、どんな時も、順境の時も逆境の時も、イエス・キリストによって強められ、支えら得ていることを知っているからです。

これが、私たちの人生の喜びの秘訣です。

「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」。

お祈りを致します。